

第一次計画から第三次計画までの物質フロー指標の変遷

指標の種類	物質フロー指標		第一次循環基本計画	第二次循環基本計画	第三次循環基本計画
目標を設定する指標					
入口	資源生産性 (※1)		39 万円/トン (平成 22 年度目標)	42 万円/トン (平成 27 年度目標)	46 万円/トン (平成 32 年度目標)
循環	循環利用率		14% (平成 22 年度目標)	14~15% (平成 27 年度目標)	17% (平成 32 年度目標)
出口	最終処分量		2,800 万トン (平成 22 年度目標)	2,300 万トン (平成 27 年度目標)	1,700 万トン (平成 32 年度目標)
目標を設定する補助指標・推移をモニターする指標					
入口	一次資源等価換算した資源生産性		—	—	○
	土石系資源投入量を除いた資源生産性 (※1)		—	77 万円/トン (平成 27 年度目標)	68 万円/トン (平成 32 年度目標)
	化石系資源に関する資源生産性		—	○	○
	バイオマス系資源投入量 (※2)		—	○	○
	ものづくりの資源生産性・産業分野別の資源生産性	ものづくりの資源生産性	—	—	○
		産業分野別の資源生産性	—	○	○
	我が国の金属系資源輸入量に関わる TMR (※3)		—	○	—
循環	出口(排出)側の循環利用率		—	—	45% (平成 32 年度目標)
	循環資源の輸出入量		—	○	○
	隠れたフローを考慮した金属の TMR ベースの循環利用率		—	—	○
その他	廃棄物部門由来の温室効果ガス排出量等 (※4)		—	780 万トン-CO2 削減 4300 万トン-CO2 排出 (平成 20~24 年度の 5 年間平均の目標)	○
	総物質消費量 (※5)		—	○	—

数字が記載されている部分は目標を設定する指標及び目標を設定する補助指標の目標値を表している。また、「○」は推移をモニターする指標を設定したものであり、「—」は指標を設定していないものである。

※1 GDP の基準年が各計画で異なる点に留意。単純に比較することはできない。

※2 第三次循環基本計画では、「バイオマス系資源投入量」と記載されているが、推移をモニターするのは「バイオマス資源投入率」(割合)である。

※3 TMR に関する指標としては、第二次循環基本計画では「循環」の区分ではなく、「入口」の区分の指標として「我が国の金属系資源輸入量に関わる TMR」を設定していた。

※4 第二次循環基本計画では廃棄物部門由来の温室効果ガス排出量に数値目標を掲げていたが、第三次循環基本計画では平成 25 年度以降の地球温暖化対策・施策の今後の議論の状況を踏まえ検討することとした。

※5 第三次循環基本計画では、取組指標の「国民一人当たりの資源消費量」として扱うこととした。